

# イングリッシュキャンプにおける参加者の 英語学習動機づけの変化

～国際的志向性を中心に～

武藤克彦

(上智大学大学院)

## 1. はじめに

本発表では、主に「国際的な仕事への興味、日本以外の世界との関わりをもとうとする態度」、つまり国際的志向性（八島, 2004）の観点から、イングリッシュキャンプの参加者（小学3～6年生）の英語学習に対する動機づけの変化について論じたい。

「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」（文部科学省, 2011）における提言3の具体的施策として「教育委員会や学校は、ALTや民間人材などを活用して、イングリッシュキャンプなど、生徒が集中的に英語に触れる機会を設ける」と述べられている。しかしながら、小学生を対象としたイングリッシュキャンプに基づく事例研究はごく少数である。よって、この分野における研究は必須である。

## 2. 本研究

### (1) リサーチクエスチョン

RQ1. キャンプを通じて参加者の英語学習の動機づけはどのように変化するのか。

RQ2. 国際的志向性を育成するために必要と考えられる主要な要因は何か。

### (2) 研究対象キャンプと参加者

研究対象キャンプ…6日間の Kumon English Immersion Camp (EIC)

研究対象者…小学3年～6年生の計86名。普段から学校以外で英語学習に励み、全員が英検4級以上を取得

指導者（キャンプリーダー: CL）…世界17カ国（地域）出身の大学生32名

### (3) データ収集と分析方法

データ収集方法・・・アンケートを用いた英語学習の動機づけについての自己評価

アンケート・・・42の質問（18カテゴリー）、6段階のリッカート尺度

データ分析・・・T検定と相関分析を用いて分析

⇒ 動機づけの変化と、国際的志向性と関連する英語学習の動機づけや態度を調べる。

### 3. 分析結果

#### (1) T 検定

有効データ (N=57) に T 検定 (対応のある 2 つのデータ、両側検定) を用いて分析  
 ⇒ 15 の質問 (9 カテゴリー) にキャンプ前後で有意差 ( $p < .05$ ) が見られた。

Table 1. キャンプ前後で有意差が見られたカテゴリーと質問項目 (N = 57)

| Category                  | Question no.     | p-value |
|---------------------------|------------------|---------|
| (1) 「自分の意図や努力」            | Q31              | < .001  |
| (2) 「理想とする英語を使う自分」        | Q24              | .028    |
| (6) 「英語を道具として考える<仕方なしに>」  | Q13<br>Q39       | .031    |
| (11) 「民族<日本人の価値感や文化>中心主義」 | Q21              | .004    |
| (12) 「英語に対する興味・関心」        | Q37              | .003    |
| (13) 「英語に対して抱く不安」         | Q7<br>Q34        | .005    |
| (15) 「文化に対する関心」           | Q30              | < .001  |
| (17) 「国際的志向性」             | Q3<br>Q15<br>Q36 | < .001  |
| (18) 「英語バラエティーに対する寛容さ」    | Q9<br>Q23<br>Q29 | .027    |

\* $p < .05$  \*\* $p < .01$

#### (2) 相関分析

事後アンケート (N=57) の各質問項目結果の相関を取る

⇒ 多くの質問項目が「国際的志向性」の質問項目 (Q3, Q15, Q28, Q36) と相関

Table 2. 国際的志向性に関する質問と他の質問との相関 (N=57)

|     | Positive Correlation  |                        | Negative Correlation          |                          |
|-----|---|------------------------|-------------------------------|--------------------------|
|     | Moderate<br>(.4 < r ≤ .7)                                       | Strong<br>(.7 < r < 1) | Moderate<br>(- .7 < r ≤ - .4) | Strong<br>(- .4 < r < 1) |
| Q3  | Q6, Q17, Q18, Q19, Q21,<br>Q24, Q25, Q28, Q30, Q35,<br>Q37, Q40 | none                   | none                          | none                     |
| Q15 | Q1, Q2, Q12, Q14, Q18,<br>Q21, Q28, Q30, Q31, Q37,              | Q6, Q35                | Q7                            | none                     |

|     |  |                   |      |      |
|-----|--|-------------------|------|------|
|     | Q38, Q40   |                   |      |      |
| Q28 | Q1, Q2, Q3, Q12, Q14, Q15, Q17, Q19, Q22, Q30, Q32, Q36, Q37, Q38, Q42 | Q6, Q21, Q35, Q40 | none | none |
| Q36 | Q2, Q17, Q20, Q25, Q28, Q29, Q30, Q39, Q41                             | none              | none | none |

#### 4. 結論と示唆

RQ1. キャンプを通じて、参加者の英語学習の動機づけはどのように変化するのか。

- ・統計的な有意差 ( $p < .05$ ) が見られたのは 15 の質問項目 (9 カテゴリー)
  - ・特に顕著な有意差が見られた質問は「英語に対して抱く不安」と「英語バラエティーに対する寛容さ」のカテゴリーに属する質問
- ⇒ キャンプを通してこの2つが大きく変化

RQ2. 国際的志向性を育成するために必要と考えられる主要な要因は何か。

- ・多くの要因 (質問項目) が国際的志向性と相関がある。
  - ・「英語コミュニティーへの態度」と「英語圏との統合性・同調性」に強い相関
- ⇒ 統合的動機づけも国際的志向性を高めることと関係があるように思われる。
- ⇒ 国際的志向性を強めるには「英語に対して抱く不安」は少ない方がよい

外国語活動の授業では、国際的志向性を十分に育成するのは難しいと考えられる。人材的、予算的な課題は多いが、外国語活動 (または今後教科化された際に) の補助プログラムとしてイングリッシュキャンプの果たす役割は大きいのではないだろうか。

#### 参考文献

- 文部科学省 (2011). 「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」.
- 八島智子 (2004). 『外国語コミュニケーションの情意と動機』 大阪: 関西大学出版部.
- Muto, K., Shinohara, T., Adachi, M., & Kikuta, M. (2013). English immersion camp and international posture. In N. Sonda & A. Krause (Eds.), JALT2012 Conference Proceedings. Tokyo: JALT.

資料: アンケートの質問項目      \*は「国際的志向性」に関する質問

- Q1. 英語が好きだ。
- Q2. 英語の勉強をするのはとても面白い。
- \*Q3. 英語を勉強して世界各国で活躍したい。
- Q4. 自分は英語の勉強をがんばっていると思う。
- Q5. このまま勉強を続けたら、将来楽に英語を書けるようになると思う。
- Q6. 様々な国の人々と知り合いになりたい。

- Q7. 英語を話す外国人と会うと、不安になる。
- Q8. 自分には英語学習の才能があると思う。
- Q9. 英語を使うときは文法を間違えてはいけない。
- Q10. 親が英語の勉強をすすめている。
- Q11. 海外旅行をしたいので、英語の勉強は大切だ。
- Q12. 発音が多少違ってコミュニケーションすることが大切だ。
- Q13. 英語ができないと、出来の悪い生徒だと思われるので英語の勉強は大切だ。
- Q14. 英語のリズム感が好きだ。
- \*Q15. 英語を勉強していろいろな国の人と仲良くなりたい。
- Q16. 英語の影響で日本語が乱れていると思う。
- Q17. 将来自分のしたいことをするためには、英語が必要となる。
- Q18. ポップミュージックなど英語の音楽が好きだ。
- Q19. 英語ができれば世界中で働くことができるので、英語の勉強は大切だ。
- Q20. 私が英語を勉強することを周りの人が期待しているので、英語の勉強は必要だ。
- Q21. 他の国の文化の考え方や習慣にとっても関心がある。
- Q22. もっと努力すれば、英語を確実に身につけられると思う。
- Q23. 英語を話す外国人のようにきれいな英語を話せることが大切だ。
- Q24. 自分が外国人と英語で話をしている様子を想像できる。
- Q25. 英語の勉強の時間をいつも楽しみにしている。
- Q26. 国際化が進むと、日本の良いところなくなってしまうのではと心配だ。
- Q27. 親は私に、あらゆる機会を利用して英語を読んだり話したりして、英語を使うようにすすめている。
- \*Q28. 英語を勉強していろいろな国の文化を知りたい。
- Q29. きれいな英語発音を身につけるべき。
- Q30. 英語の雑誌や新聞、本が好きだ。
- Q31. 今後さらに学校やその他の所で英語のクラスがあれば、出てみたい。
- Q32. 英語の勉強をしておく、良い仕事につくために役立つと思うので、英語の勉強は大切だ。
- Q33. 英語ができれば海外旅行が楽しめるので英語の勉強をする。
- Q34. 英語を話す外国人と英語で会話をする時、不安を感じる。
- Q35. 英語が使われている国の人々と仲良くなりたい。
- \*Q36. 英語を学ぶのは世界に貢献するためだ。
- Q37. 英語が話されているのを聞くとわくわくする。
- Q38. 自分は他の国の文化の考え方や習慣も大切だと思っている。
- Q39. 英検などのテストで低い点数を取ったり、不合格になりたくないで英語の勉強は必要だ。
- Q40. 様々な国の人々についてもっと知りたい。
- Q41. 英語を勉強しないと親が残念に思うので、英語を勉強しなければならない。
- Q42. このまま勉強を続ければ、たいいていの英語の文章を読み、理解できるようになると思う。